

紙のレンズから見た古典籍

—高精細デジタルマイクロスコープの世界—

プログラム

日時 2021年3月13日(土) 14:00~16:30

3月14日(日) 10:30~17:30

会場 Zoom ウェビナーによるオンライン (ホスト: 実践女子大学文芸資料研究所)

主催 実践女子大学文芸資料研究所・「源氏物語研究の学際的・国際的拠点形成」

文部科学省 平成30年度 私立大学研究ブランディング事業

共催 公益財団法人東洋文庫

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館

協力 印刷博物館

1日目 3月13日(土) 14:00~16:30

第1部 14:00~15:30

開会の辞 河野龍也 (実践女子大学) シンポジウム開催にあたって

発表

1 江南和幸 (龍谷大学名誉教授) 新コーディコロジーの提唱—自然科学、工学、文学の融合—

2 澤山茂 (実践女子大学文芸資料研究所) 和紙概説—繊維と充填剤—

3 舟見一哉 (実践女子大学) 古筆切におけるツレの認定と紙質—源氏物語を中心に—

休憩 15:30~15:40

第2部 15:40~16:30

講演

1 石塚晴通 (北海道大学名誉教授) コディコロジー (文理融合型総合典籍学) の展開

一日目閉会の辞 中西保仁 (印刷博物館) 印刷博物館がめざすもの

2日目 3月14日(日) 10:30~17:30

午前の部 10:30~12:30

ご挨拶 濱下武志 (東洋文庫)

発表

- 1 徐小潔、曾谷佳光 (東洋文庫) 『大清聖祖仁皇帝實録』(康熙帝實録)の紙質—大紅綾本と紫綾本—
- 2 中村覚 (東京大学史料編纂所) 機械は紙を見分けられるのか—紙質観察画像データベースの構築と画像分類における機械学習技術応用の試み—
共同研究者: 徐小潔 (東洋文庫)、段宇、(学習院大学)、多々良圭介 (東洋文庫)

講演 赤尾栄慶 (京都国立博物館名誉館員) 料紙を観る—京都国立博物館所蔵の典籍—

質疑応答

休憩 12:30~13:50

午後の部 14:00~17:30

パネル: 打紙 (うちかみ) と米粉 司会: 佐藤悟 コメンテーター: 舟見一哉

発表

- 1 鈴木七実 (東京芸術大学 院)・大和あすか (東京芸術大学) 打紙の復元実験—平安後期伊勢物語絵巻の想定復元制作を通して—
- 2 澤山茂 (実践女子大学文芸資料研究所) 打紙による紙の緻密化と平滑化
- 3 上野英子 (実践女子大学) 書き入れのある源氏物語の紙質について—明融本、公条本等—
- 4 横井孝 (実践女子大学名誉教授) 為家本源氏物語「幻」の紙質と筆者
- 5 江南和幸 (龍谷大学名誉教授) 穀物デンプン添加による紙の改質—4世紀中央アジア文書から江戸期刊本用紙にみる—
- 6 日比谷孟俊 (実践女子大学文芸資料研究所) 縮緬絵の制作工程に関する新しい考察—紙の塑性変形について—
- 7 佐藤悟 (実践女子大学) 『修紫田舎源氏』の用紙について—紙質と価格の関係—

パネルディスカッション・質疑応答等 17:00~17:20

閉会の辞 山本和明 (国文学研究資料館) 国文学研究資料館が目指す未来